

天野明弘先生を悼んで

高畑 由起夫
総合政策学部長

関西学院大学総合政策学部初代学部長の天野明弘先生がお亡くなりになられたのは2010年3月25日のことでした。あれから、早くも2年が経とうとしておりますが、このたび、前学部長の久野武先生のご尽力で、天野先生を偲んで『総合政策研究』に追悼記念号として特集する運びとなりました。ここにあらためて天野先生の総合政策学部へのご貢献を讃えるとともに、総合政策学部黎明期の日々を振り返ってみたいと思う次第です。

天野先生の詳しいご経歴やご業績等はほかの方々から詳しいお話がありますので、ごくかいつまんで紹介しますと、天野先生は1956年に神戸大学をご卒業されてから、大学院、経営学部助手と進まれ、神戸大学経営学部長まで務められました。それが、1995年3月に神戸大学を退かれ、新設の総合政策学部に移られることとなります。そのお心のうちには、よほどのご覚悟があったのではないかと、思います。

というのも、天野先生はもともと国際経済学がご専門でしたが、環境経済学というまったく新しい分野を志され、この分野における先駆者となられていたからです。1995年に総合政策学部が開学する際、環境政策を大きな柱とする学部の開設に、先生としてもおそらく期される場所があったでしょう。そうした意欲は、学部長在任中の重職やご病気による入院等にも関わらず、新入生向け講義の内容をまとめられた御著書『総合政策・入門』をはじめとして次々に上梓された専門書・論文の数々にあらわれています。

それを考えれば、学部開設当初を振り返る時、我々教員が天野先生のご熱意にどれだけ応えることができたのか、はなはだ忸怩とするところがあります。天野先生は非常な紳士でしたから、きつい物言い等もとよりあるはずもなく、ご自分の主張を押しつけることなどありませんでした。思い返せば、ご自分に課せられた新設学部の長という重い仕事を、粛々とこなされていたような記憶があります。我々はずいそこに甘えてしまい、面倒なことは先生にまかせきりにして、先生が「本当はこうして欲しい」と思われたことなども、気づきもせぬまま、日を送ってしまったのではないかと、そんな気がしないわけではありません。

本年3月11日の東日本大震災、そしてその後の東京電力福島第一原子力発電所の事故等によってはからずもあきらかになったエネルギー政策や環境政策の綻び等、天野先生にとってみれば、既にすべて見通されていたことでしょう。その点でも、天野先生にいましばらくご活躍いただき、今日の事態について鋭いご発言・ご提案をしていただきかった、と思わずにはいられません。

この特集では、天野先生の遺徳を偲ぶ多くの皆様方からの玉稿をいただきました。総合政策学部を代表して、寄稿者の皆様には御礼を申し上げるとともに、天野先生には教え子・後輩の皆様の活躍、そして総合政策学部の行く末を彼岸から見守っていただきたいと願う次第です。

2012年3月1日

